子　開院45周年

おもちゃの病院

問消費生活センター（☎3711－1133、FAX3711－5297）

おもちゃの病院は、壊れたおもちゃを子どもの目の前で治療（修理）し、物を大切にする心、科学する心を育てることを目的にしています。昭和52年に開院し、3年度末までの累計で、約29,500件を修理しました。おもちゃを治す先生は、全員ボランティアです。治したいおもちゃがあるかたは、直接会場へお越しください。

感染症拡大防止のため、現在は目の前での治療はしていません。詳細は区HP（コード❶）をご覧いただくか、お問い合わせください。

❶

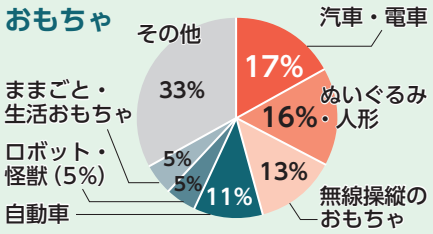
おもちゃの病院
（目黒2－4－36　区民センター1階）

時毎週日曜日13：00～15：00
年末年始を除く
¥無料（部品代は実費負担になる場合あり）
対子どものおもちゃ（1人2点まで）

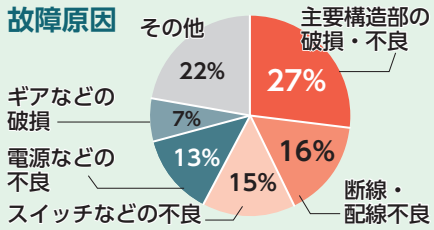
治療できないおもちゃ
- 玉が飛び出る、火を使うなどの危険なもの
- 時計・カメラや電気製品・家庭用品ほか
- 浮き輪など空気もれが直接生命にかかわるもの
- ヘリコプター・ドローンなどの飛ばすもの
- アンティーク人形など、修復に専門性を要するもの

治療の多かったおもちゃと治療内容（3年度）

おもちゃ



故障原因



壊れたおもちゃは、私たちが治します！

おもちゃの先生は資格不要で、どなたでも参加できます。興味のあるかたは、消費生活センターへお問い合わせください。

＼おもちゃの先生の皆さん／

治療の流れ

＼おもちゃを持参／

窓口で診察
問診票におもちゃの症状（いつから・どのように調子が悪いのかなど）を記入して、先生に状態を確認してもらいます。
※説明書や外れた部品、破片などがあればお持ちください

治療
別室の治療室で、治療します。

＼ボクも治るかな／

入院
当日中に治療できない場合、しばらく預かります。

＼ここは優しく扱ってね／

退院
治療したおもちゃは、窓口で返却します。先生からおもちゃの様子を伝えることもあります。

めぐろで活躍する人を紹介　ひとめぐり

vol.16

おもちゃの病院院長
菊間澄夫（きくまますみお）さん

おもちゃを通して物を大切にする心を育てたい

プロフィール
定年退職前の平成12年からおもちゃの病院の先生になる。平成30年からは院長として、活躍中。

おもちゃの病院を知ったのはサラリーマン時代
「これ治るかな」と1人の男の子が来院。ちょっと見せてみてと、おもちゃの先生の診察が始まる。ここは消費生活センターで活動する、おもちゃの病院。毎週日曜日にボランティア仲間が集まって、おもちゃを修理している。「とにかく楽しんでいます」と院長の菊間さん。この道22年のベテランだ。活動のきっかけを聞くと「サラリーマン時代に、おもちゃの病院の記事を見たのがきっかけです。いつかやってみたいとそのときは漠然と思っていました。月日は流れ、定年前になり自分の時間ができるようになりました。それで、意を決しておもちゃの病院に電話したんですよ」と語る。

おもちゃの病院の活動は試行錯誤
「入った当初は、とにかくどんなことをやるのか、周りの先輩をよく見ていました。工具は貸してくれるんですけど、やっぱりそこは職人かたぎ。みんな自分の工具を相棒のように丁寧に扱っている。手作りの工具を使っている先輩もいるし、それだけ愛着があるってことなんです。だから私も、借りるんじゃなくて秋葉原とかに買いに行くようになりました。また、治すにはどういう部品がいるのか、どういう仕組みなのか、先輩に相談しながら、頭をフル回転させて考えます。時には、秋葉原で半日くらいかけて部品を探すこともありました。考えて、試して、うまくいかなかったらまた考えて、試して。これがすごく楽しいんです。動かなかったおもちゃが動き出した時はたまらないですね。ボランティアだからという気持ちよりも、私は楽しんでやっている。そこに子どもたちの笑顔がついてくる、仲間もみんなそんな感じです」と菊間さん。

◀動かなかったおもちゃを菊間さんが治療

コロナ禍でも変わらなかった子どもたちの笑顔
「コロナ禍になってからは変えることが多く、大変でした。活動する先生の人数を制限したり、目の前で子どもたちとコミュニケーションを取りながら行っていた治療ができないので、故障原因を確認できるよう問診票を作ったり。受付時に短時間ですが、子どもたちにどうやっておもちゃを使っていたのか、どうして壊れてしまったのかを聞き、コミュニケーションを取りながらやっています。本来、おもちゃの病院は子どもたちに物を大切にする気持ちや、工夫することを育むための活動ですから。でも、コロナ禍になっても変わらなかったのは、動かなかったおもちゃがウイーンと音を出して息を吹き返した時の子どもたちの笑顔です。この笑顔を見ると、やってよかったとやりがいを感じますね。おもちゃが壊れてしまったからといってすぐに捨てないでぜひ一度、私たちおもちゃの先生に見せてくださいね」と菊間さんは笑顔で語った。